

北陸技術士懇談会（F I T）

【令和6年度 総会・特別講演会報告】

1. はじめに

令和6年度北陸技術士懇談会の総会・特別講演会を令和6年6月8日（土）金沢勤労者プラザ101研修室にて、対面形式で開催した。

2. 総会

開会の挨拶で今年度会長から、多数の参加者に対するお礼に加え、懇談会として会員の技術力向上と相互交流の両輪で取り組むとともに、効率的なCPDポイント積立に寄与したいとの説明があった。

36名の参加があり、下記の議案の審議を行い、承認された。

第1号議案 令和5年度活動報告と決算（案）

第2号議案 令和6年度活動計画と予算（案）

第3号議案 公募型部会の新設（案）

第4号議案 役員改選（案）

また、女性部会および若手部会の活動報告や、当会ホームページのリニューアルおよび会員名簿のダウンロードサイト新設についての報告があった。

3. 特別講演会

総会終了後、対面形式で57名の参加により、特別講演会を開催した。

講演1：「雑談による交流から生み出すイノベーション」

講師 篠田 隆行氏

国立大学法人金沢大学学長補佐（地域共創担当）

先端科学・社会共創推進機構

人口減少・少子高齢化時代における地域発展に必要な取組みを、大学（学生）、行政、地域社会、民間企業との関係性を中心に講演した。



篠田 隆行氏の講演

(1) 取組みの背景

金沢大学では、地域にイノベーションを起こす人材を育むとともに、地域発展のモデルとなる取組みを展開している。「先端科学・社会共創推進機構」は、民間と行政との橋渡しを行う役割を担っており、私はその手段として「雑談」に注目している。

(2) 「白峰モデル」等の取組み

金沢大学の課外活動プロジェクト「雑談のチカラ」を通じて実施した白峰での取組み（白峰モデル）では、高齢住民との雑談によりニーズを聞き出し、行政と企業を巻き込み社会的課題（買い物難民）の解決に繋げた。また、金沢市内の商店街が主催するイベントでは、その情報をSNSで発信することで多くの来客が訪れた。これらの成果は学生たちが自ら立ち上げたサークル活動によるものであり、「社会との接点を設けたい」「様々なことを経験したい」とのモチベーションがベースとなっている。

講演2：「産学官金連携によるオープンイノベーションの推進」

講師：後藤 基浩氏

（公財）ふくい産業支援センター常務理事
兼 オープンイノベーション推進部 部長

福井県内企業のイノベーションを推進した「ふくいオープンイノベーション推進機構」設立の背景や実際の成果を、行政経験のある技術者の立場から講演した。

(1) ふくいオープンイノベーション推進機構設立

厳しい競争環境の中、自社以外のリソースを活用（オープンイノベーション）し、市場機会を創出することを目的に、同機構が平成27年6月に設立された。設立に際し、好調なドイツ経済を支える「フラウンホーファー研究機構」を参考にした。



後藤 基浩氏の講演

その際、大学や大企業からのサポート取得や、研究資金を集めるためのネットワーク構築・拡大が課題となった。

(2) 支援分野および開発事例

5分野（宇宙、炭素繊維、ヘルスケア、AI・IoT・ロボット、脱炭素関連技術）を重点支援している。

具体的な開発事例として、宇宙分野では、「福井県民衛星プロジェクト」による県民衛星「すいせん」打ち上げや、ヘルスケア分野では、県内企業が有する繊維産業技術を活用し、大企業と大学で共同開発した心疾患向け血管修復パッチの実用化がある。

特別講演会終了後、ANAクラウンプラザホテル金沢で新・既技術士交流会（合格祝賀会）を開催し82名が参加した。（文責 富山 松村和雄）